

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記
貸借対照表日において、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況は存在しない。
2. 重要な会計方針
「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。
 - (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券・・・債券は償却原価法によっている。
 - (2) 固定資産の減価償却の方法
建物附属設備、什器備品・・・定率法による減価償却を実施している。
ソフトウェア・・・定額法による減価償却を実施している。
 - (3) 引当金の計上基準
貸倒引当金の計上基準・・・売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率を使用し、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込み額を計上している。なお、一般債権については貸倒実績がないため、引当金は設定していない。
賞与引当金の計上基準・・・職員の賞与の支給に備えるため、支給予定額のうち当期の負担に属する金額を計上している。
退職給付引当金の計上基準・・・役職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。
 - (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。
 - (5) ファイナンス・リース取引の会計処理
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
3. 表示方法の変更
当法人は、従来「印刷製本費」として処理していた支出3,782,350円について、当期より「広報宣伝費」として表示することに変更した。この変更は、印刷物の内容及び目的が当法人の広報活動に係るものであることから、その支出目的をより適切に表示するために行ったものである。
なお、前期の金額を当期の表示方法に基づいて組み替えて比較表示している。これにより、前期の「印刷製本費」は3,819,948円減少し、「広報宣伝費」は同額増加している。
4. 基本財産及び特定資産の増減及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基 本 財 産				
普 通 預 金	31,054,507	37,534	0	31,092,041
小 計	31,054,507	37,534	0	31,092,041
特 定 資 産				
退 職 給 付 引 当 普 通 預 金	41,176,700	17,436,900	0	58,613,600
保 険 事 業 推 進 引 当 普 通 預 金	385,000,000	0	0	385,000,000
会 館 建 設 ・ 移 転 諸 経 費 積 立 普 通 預 金	50,000,000	0	0	50,000,000
OA化システム開発準備引当普通預金	175,000,000	25,000,000	0	200,000,000
公 益 事 業 推 進 引 当 普 通 預 金	60,000,000	0	0	60,000,000
管 理 業 務 引 当 普 通 預 金	195,000,000	0	0	195,000,000
小 計	906,176,700	42,436,900	0	948,613,600
合 計	937,231,207	42,474,434	0	979,705,641

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当額)	(うち一般正味 財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基 本 財 産				
有 価 証 券	0	0	0	0
普 通 預 金	31,092,041	31,092,041	0	0
小 計	31,092,041	31,092,041	0	0
特 定 資 産				
退 職 給 付 引 当 普 通 預 金	58,613,600	0	0	58,613,600
保 険 事 業 推 進 引 当 普 通 預 金	385,000,000	0	385,000,000	0
会 館 建 設 ・ 移 転 諸 経 費 積 立 普 通 預 金	50,000,000	0	50,000,000	0
OA化システム開発準備引当普通預金	200,000,000	0	200,000,000	0
公 益 事 業 推 進 引 当 普 通 預 金	60,000,000	0	60,000,000	0
管 理 業 務 引 当 普 通 預 金	195,000,000	0	195,000,000	0
小 計	948,613,600	0	890,000,000	58,613,600
合 計	979,705,641	31,092,041	890,000,000	58,613,600

6. 担保に供している資産

該当なし。

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物 附 属 設 備	5,748,458	4,858,504	889,954
什 器 備 品	5,189,489	4,985,327	204,162
ソ フ ト ウ ェ ア	236,768,222	217,844,373	18,923,849
合 計	247,706,169	227,688,204	20,017,965

8. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当なし。

9. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経 常 収 益 へ の 振 替 額	
基 本 財 産 受 取 利 息	6,788
合 計	6,788

10. 関連当事者との取引の内容

該当する取引はなし。

11. 保証債務

該当なし。

12. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
第 157 回 利 付 国 債	497,030,105	490,650,000	△ 6,380,105
第 172 回 利 付 国 債	500,000,000	488,800,000	△ 11,200,000
第 376 回 利 付 国 債	990,763,777	943,200,000	△ 47,563,777
合 計	1,987,793,882	1,922,650,000	△ 65,143,882

13. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務およびその内訳（単位：円）

退職給付引当金	58,613,600
---------	------------

(3) 退職給付費用に関する事項（単位：円）

退職給付費用	17,436,900
--------	------------

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

14. 税効果会計関係

(1) 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

（単位：円）

賞与引当金	1,237,000
賞与引当金に係る社会保険料等	186,000
退職給付引当金	11,545,000
未払事業税	4,999,000
電話加入権減損額	55,000
繰延税金資産合計	18,022,000

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	34.59%
（調整）	
交際費	0.12%
住民税等均等割	0.03%
税額控除	-0.31%
法人会計経費の収益事業負担額	-6.01%
補償事業会計の内、非収益事業に係る金額	-3.16%
その他	0.23%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.49%

15. 重要な後発事象

該当なし。

16. 追加情報

当法人は、役員の報酬等及び費用に関する規程において、当期に非常勤役員退任時の退職手当支給について、新たに設定した。これに伴い、過去勤務期間に対応する非常勤役員に係る退職給付見込額4,600,000円を過年度退職給付費用として経常外費用に計上した。また、当期勤務分に係る退職給付費用については、経常費用（管理費）に含めて処理している。